


第1章

みやぎの自然

Nature

- 
- 「金華山」は国内で唯一、「山」と呼ばれる「有人島」
 - 松島湾周辺は約70ヶ所の貝塚が集中する日本随一の「貝塚の宝庫」！
 - 松島湾が「世界で最も美しい湾クラブ」に日本で初めて加盟
 - 渡り鳥の楽園 宮城県はガン・カモ類の飛来数が日本一！
 - 涌谷町は日本初の産金地で、東大寺の大仏の鍍金に使われた
 - 南三陸町歌津で発見された「ウタツギヨリユウ」は世界最古の魚竜化石！
 - 『杜の都』という呼称は、国内唯一仙台市の雅称（代名詞）と言える
 - 広瀬川は、日本で唯一源流からひとつの都市で完結する一級河川
 - 仙台市八木山動物公園には国内最高齢の動物が2種2頭いる
 - 富沢遺跡から発掘した2万年前の姿が、地底の森ミュージアムで保存！
 - 仙台市宮城野区の「日和山」は日本一低い山として知られる
 - 震災を風化させない取組を宮城から未来に発信！

「金華山」は国内で唯一、 「山」と呼ばれる「有人島」

みやぎの自然

国内唯一

石巻市

金華山



金華山黄金山神社



金華山は「山」と呼ばれる「島」で最大！

金華山は、宮城県の牡鹿半島の突端から東約1kmの海上に浮かぶ宮城県最大（面積10.28 km²）の島である。

「満潮時に島の周囲が100m以上」とする海上保安庁の基準を採用すると、日本には6,852の島（本州他三島含む）がある。その中で名称の最後が「島」ではなく「**山**」で終わる島は13あるが、**有人島は金華山**だけである。また、その殆どが0.1 km²にも満たない島々で、山と呼ばれる島の中で金華山は突出して大きい。金華山には、黄金山神社関係者が常時10名ほど住んでいる。東北地方では青森の恐山、山形の出羽三山とともに「**東奥三大霊場**」と言われる。

なぜ「金華山」と呼ばれるのか

黄金山神社は、奈良時代にみちのくで金が産出されたことを記念に建てられた神社だった。その後、神仏習合し「**金華山大金寺**」となった。江戸期には**東奥三大霊場**と言われ、弁財天を祀った大金寺への参詣が「**金華山詣**」として大変賑わった。この石巻から荻浜、鮎川を経て、突端の山鳥に至る牡鹿半島西岸の道が「**金華山道**」である。

明治時代に入り逆に**神仏分離**が進み、檀家を持っていなかった大金寺は廃寺となり、黄金山神社が再興されて現在に至っている。1873年（明治6年）に地籍簿の作製にあたり、「**金華山島**」とはせず、旧来の「**金華山**」という寺の山号をそのまま島の名前とした。このため、全国的にも珍しい島名が誕生したのである。

参考：「日本の島事典」日本離島センター（1995）、「島嶼大辞典」紀伊国屋書店（1991）、「宮城県の不思議事典」新人物往来社（2004）、「金華山黄金山神社HP」

松島湾周辺は約70ヶ所の貝塚が 集中する日本随一の「貝塚の宝庫」!

みやぎの自然

日本随一

東松島市・七ヶ浜町 他

松島湾岸貝塚遺跡群



縄文人が豊かな海と山の幸を糧に
集落を営んでいた
(奥松島縄文村歴史資料館提供)

里浜貝塚



里浜史跡公園

大木囲貝塚遺跡



松島湾沿岸は、日本で随一の「貝塚の宝庫」

宮城県内には約210ヶ所の貝塚があり、**松島湾沿岸に約70ヶ所**が集中しており、**日本で随一の「貝塚の宝庫」**と言われる。湾内に流れ込む河川がないため、縄文時代から地形が変わらず、当時と同じ風景を現代人も見ている。

- 七ヶ浜町の丘陵上にある「**大木囲貝塚**」は、縄文時代前期から後期にかけての集落跡で、1968年（昭和43年）の国史跡指定面積が197,248㎡と**国内最大**である。大木囲貝塚に集落が営まれた頃に東北地方南部で盛んに作られていた土器が「**大木式土器**」と呼ばれているように、学術的に重要な位置を占める遺跡である。
- 東松島市の宮戸島にある「**里浜貝塚**」は、東西640m、南北200mに及び**国内最大級**の貝塚で、1995年（平成7年）国史跡に指定されている。縄文時代前期から弥生時代中期まで、4,000年以上の非常に長い期間、集落が存続していたという。

2つの資料館を訪ねてみよう!

七ヶ浜町立歴史資料館（大木囲貝塚に隣接）

大木式土器の変遷を知ることができる展示などを無料で見学できる。

奥松島縄文村歴史資料館（里浜貝塚に隣接）

里浜貝塚で見つかった土器や道具、魚介類・獣の骨などが展示されている。

松島湾が「世界で最も美しい湾クラブ」に 日本で初めて加盟

みやぎの自然

日本初

松島町 他5市町

松島湾(西行戻しの松からの風景)



「世界で最も美しい湾クラブ」加盟証書



左：加盟証書、
下：松島町役場入口



松島湾に新たな称号！世界で最も美しい湾クラブに加盟

2013年（平成25年）カンボジアで開催された『第9回世界で最も美しい湾クラブ世界会議』において、**松島湾が本クラブへの加盟を認められ、日本では初めての加盟湾**となった。（2018年（平成30年）現在、日本では富山湾、駿河湾、宮津湾、九十九島湾の5つの湾が加盟）

【世界で最も美しい湾クラブ（英：World's Most Beautiful Bays Club）とは】

湾を活用した観光振興、地球環境保護、観光資源の保全を目的とする団体（NGO）として、1997年（平成9年）に設立。フランスのヴァンヌ市に本部を置き、ユネスコと連携した活動も行っている。松島湾を含め27の国と地域の44湾が加盟（2018年11月現在）。

【加盟条件】

1. 優れた自然の美しさがあること
2. 豊かな生態系があること
3. 経済的潜在力があること
4. 地域と国レベルでの法的保護体制が整っていること
5. 世界遺産の評価基準に準じていること など

加盟秘話

日本からの申請以前に、クラブの本部・世界の文化人などから**“松島湾が日本で最も加盟するに値する”**などの働きかけがあり、最終的にクラブからの要請が出るという非常に珍しいケースで加盟したとのこと。

渡り鳥の楽園

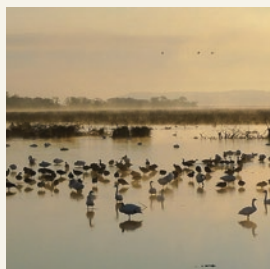
宮城県はガン・カモ類の飛来数が日本一！

みやぎの自然

日本一

登米市・栗原市・大崎市

伊豆沼に休む渡り鳥



マガンのV字編隊飛行



朝のマガンの飛び立ち



毎年1月中旬に環境省から依頼を受けて各都道府県が実施する「ガン・カモ類の生息調査」(対象：ガン、カモ、ハクチョウ類)によると、これら渡り鳥の宮城県への飛来数は日本一である。2018年(平成30年)1月の結果では310,949羽。ガン類221,228羽、カモ類76,775羽、ハクチョウ類12,946羽で全国の16%を占める。過去5年間の平均でも宮城県が14%を占め1位であり、国内での渡り鳥の貴重な越冬場所となっている。特にガン類は、日本に飛来する約9割が宮城県に飛来している。県内の調査地点約500カ所の中で、ラムサール条約湿地の「伊豆沼・内沼」(1985年指定)、「かぶくりぬま蕪栗沼・周辺水田」(2005年指定)、「化女沼」(2008年指定)への飛来数が多い。なお、2018年に「志津川湾」(コクガンなどが飛来)が追加指定になっている。

ガン・カモ類の生息調査結果の推移(H25~H29年度)(羽)

年度	項目	総数	宮城県	ガン類数	宮城県
平成29年度		1,917,948	310,949	233,289	221,228
平成28年度		1,850,911	226,187	191,336	169,290
平成27年度		1,947,269	239,086	188,932	174,955
平成26年度		1,886,555	270,873	211,945	187,023
平成25年度		1,883,352	235,693	185,670	153,389
平均		1,897,522	256,558	202,234	181,177
全国比			14%		90%



マガン



オオハクチョウ

ねぐら
時になる場所と餌が豊富！

なぜ宮城県への飛来が多いのか

秋から冬に極東ロシアから渡ってくるガンやカモ、ハクチョウ類が越冬するには、水面が凍結せず、外敵が進入しにくい場所となりうる湖沼・河川で、周辺に餌場があることが重要である。伊豆沼・内沼など宮城県の湖沼は冬期に凍結せず、周辺には餌となる稲刈り後の落ち穂が多い広大な水田が広がり、越冬には好条件の場所である。蕪栗沼はラムサール条約湿地に指定されたが、沼だけでなく餌場の「周辺水田」も指定されている。「水田」という、人が手を加えた人工物が指定された例は珍しい。



コクガン

必見！マガンの「朝の飛び立ち」と「夕方のねぐら入り」

マガンは、美しい[V字型の編隊]を組んで飛ぶことの多い鳥である。マガンの9割が宮城県に、しかも、東北に集中することから、この風景が冬期間日常的に見られるスポットは宮城県北以外ほとんどない。このマガンの編隊飛行は、早朝に沼から飛び立ち周辺の水田に向かう途中と、夕方に戻ってくる時に見られる。



「朝の飛び立ち」は、一気に数百羽単位で飛び立つことから、その羽音と空を舞う数の凄さに圧倒される。「夕方のねぐら入り」は、数羽から十数羽単位で鳴きながら沼に戻ってくることが多く、この風景も趣がある。マガンの観察は、早朝や夕方の時間帯がベストである。

1940年（昭和15年）、日本に約6万羽いたガン類は、狩猟対象だったことから一時約5,000羽まで減少した。1971年（昭和46年）に天然記念物となってからは徐々に増加、1998年（平成10年）には1940年（昭和15年）の羽数まで回復し、その後も増加を続け今に至っている。

コラム

マガンと人間の共存

マガンは1970年代頃までは農家にとっては厄介な鳥だった。マガンの飛来は9月下旬に始まり、棒がけやはせがけで水田に干していた稲束から稲穂を食べていたためである。しかし、その後、食害に対する補償制度が整備されるなどしたほか、1985年（昭和60年）に伊豆沼・内沼がラムサール条約湿地に指定されることで、マガンと人間の共存に対する機運も高まった。

他方、農業の機械化が進み、稲束を水田に干す必要が無くなりマガンの食害の心配も無くなっている。現在では、米を栽培しない時期にも田に水を張り、マガンが飛来する環境を整える「ふゆみずたんぼ」という取り組みもなされており、マガンと人間との共存が図られている。

涌谷町は日本初の産金地で、 東大寺の大仏の鍍金に使われた

みやぎの自然

日本初

涌谷町

黄金山神社



金の産出地を祀っている神社

天平ろまん館



天平産金をテーマにした歴史館

(涌谷町役場提供)

涌谷町は、日本で初めて金が採取された！

遠田郡涌谷町は、日本で初めて金が採取された所であり、この町にある「こがねやましん黄金山神社」では、金の産出地を祀っている。黄金山神社という名前も、神社が建つ涌谷黄金山をご神体とすることからついたもので、金の産出に因んだものである。今では商売繁盛の神として信仰されている。

奈良時代、東大寺大仏の建立にあたっては、この黄金が用いられたことで知られている。江戸時代に石巻市の金華山にある同名「黄金山神社」が産金地という説で長年議論が続いたが、1957年（昭和32年）に東北大学により涌谷町の「黄金山神社」の発掘調査が行われ、奈良時代の建築遺構が確認され、天平産金ゆかりの神社問題に終止符が打たれた。1967年（昭和42年）には、神社境内は「**黄金山産金遺跡**」として国史跡の指定を受けている。現在でも遺跡内の沢ではごくわずかながら砂金が採取できる。

涌谷の金のおかげで大仏の立派な姿が！

大仏鍍金の経緯

745年（天平17年）聖武天皇は大仏建立を発願したが、当時表面を飾るための大量の金が不足していた。国内では採れないものと思っていたところ、749年（天平21年）涌谷での金の発見の報が届き、天皇の喜びは非常に大きく、元号を「天平」から「感宝」を付けた「てんぺいかんぼう天平感宝」元年と改めた。（元号四文字は**日本初**）

この発見に当たって、万葉の歌人の大伴家持が「おおとものやかもち すめらみ みよしかえ あづま みちのくやま くらね天皇の御代栄むと東なる陸奥山に金花咲く」（万葉集 四〇九七最北）と慶事を祝って詠み、その碑が現在の境内にある。**陸奥国は、例外的に金で税を納める事が定められた。**

参考：山本博文監修「あなたの知らない宮城県の歴史」洋泉社（2013）、木村浩二監修「宮城「地理・地名・地図」の謎」実業之日本社（2014）、「東大寺と東北-図録」

南三陸町歌津で発見された 「ウタツギョリュウ」は世界最古の魚竜化石!

みやぎの自然

世界一

南三陸町

ウタツギョリュウ
(学名:ウタツサウルス)



(南三陸町役場提供)

歌津魚竜レプリカ 歌津図書館(魚竜)



世界的にも重要で有名な魚竜化石、ロマンあふれる南三陸町

1970年(昭和45年)9月、歌津^{うたつたぎま}館崎の海岸で世界最古の^{ぎょりゅう}魚竜の化石が発見され「ウタツギョリュウ」(学名:ウタツサウルス)と名付けられた。この化石は約2億4,200万年前の地層から見つかった。他にも「クダノハマギョリュウ」や「ホソウラギョリュウ」(日本で最初に見つかった魚竜化石)など、異なる時代の3種の魚竜や他の化石の発見があり、魚竜化石の世界的宝庫である。南三陸周辺は、地形的条件で生き物の死骸が大陸とその周辺の海底にたまりやすいので、この土地で化石がたくさん見つかる条件が整っている。

歌津地区の図書館に!

やっと戻った歌津竜

東日本大震災の津波で魚竜館は流失し、展示標本や資料は一部破損したが、重要な所蔵品は残った。東北大学のレスキュー活動によりがれきの中から回収され修復、東北大と仙台市科学館で大切に保管されていた。ウタツギョリュウと一部の化石は無事に2013年(平成25年)春、ふるさとである歌津地区の歌津図書館に里帰りを果たした。



震災前の魚竜館

化石の町でもある南三陸町

100年以上に渡って化石研究の聖地となっている南三陸町。現在でも日々調査研究が行われている。魚竜館の再建は未定だが、歌津コミュニティ図書館に一部が展示されている。

参考:「南三陸化石ものしりブック①,②」NPO法人大阪自然史センター

もり みやこ
『杜の都』という呼称は、
国内唯一仙台市の雅称(代名詞)と言える

みやぎの自然

国内唯一

仙台市

仙台市街地



仙台城址から見た仙台市内

定禅寺通り



定禅寺通りのケヤキ並木 (160本)

「森」の都から「杜」の都 原点は江戸時代

「杜の都」と呼ばれる仙台市は、1909年(明治42年)発行の『**仙臺松島塩釜遊覧の菜**』に初めて「森の都」として登場した。そして大正頃から「杜」と「森」の両方が使われ、東京から全国に向けて宣伝され広く知られていく。富田広重著『仙台繁昌記』、山下重民著『松島大観』は、その宣伝に大きな役割を果たした。戦災で焼かれ失った緑を取り戻すべく街路樹の整備が始まったのが1950年(昭和25年)。仙台市は1973年(昭和48年)に国や全国の都市に先駆け、**「杜の都の環境をつくる条例」**を制定し、**『杜の都』が公的表記**として定められた。1997年(平成9年)に「杜の都環境プラン」が策定され、2011年(平成23年)には全面改訂され、この理念の下で今も現在進行形として緑化の途上にある。

江戸時代の屋敷林が原形

城下の8割は武家屋敷で、庭木、木材、食用となる実のなる木などが植えられ、政宗は家来達に屋敷内の植林を奨めた。これにより、仙台城下は、緑豊かな景観が育った。

広瀬川は、日本で唯一源流から ひとつの都市で完結する一級河川

みやぎの自然

国内唯一

仙台市

鹿落坂から見た広瀬川と市街地遠望



100万都市を流れる清流

広瀬川アラカルト

- ①全国の広瀬川:10(一級河川6、二級4)
- ②仙台の広瀬川:一級河川、流路延長約45km
(流路全体が「仙台市」を流れる)
- ③流域面積:311km²
- ④単一河川固有名詞条例:**全国初**(広瀬川の清流を守る条例:1974年(昭和49年)9月)
- ⑤仙台城下最古の架橋:大橋(1601年)

全国どこへ行っても「青葉城恋唄」で知られる広瀬川

- 仙台市中心部を流れる広瀬川は、一級河川名取川を二分する大支流で、河川法上の上流端は坂下沢の合流点、下流端は名取川への合流点となっている。
- 「青葉城恋唄」、「ミス仙台」、「七夕おどり」で、土井晩翠、相馬黒光等の文学作品にも登場する。秋には、芋煮会が開催される。
- 「名水百選」(環境庁)、「残したい日本の音風景100選」(環境庁)、「21世紀に残したい日本の自然100選」(朝日新聞社)に選ばれた広瀬川。
- 広瀬川を歌った校歌は、小中高合わせて40校を超す(広瀬川ハンドブック)
- 広瀬川には豊富な植物が生育、昆虫・120種の鳥、40種弱の魚が生息。

コラム

伊達政宗も「アユ」釣り

伊達政宗は広瀬川で川漁や鵜飼を行った記録がある。また、仙台開府時に架けた大橋(1601年)欄干の擬宝珠に統治の心を刻んだ漢詩が刻んである。

広瀬川1万人プロジェクト (市民の清流を守る絆)

広瀬川の自然環境を守る活動をするため、100万都市仙台の1%である1万人委員会を結成、活動している。

仙台市八木山動物公園には 国内最高齢の動物が2種2頭いる

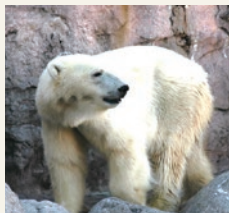
みやぎの自然

日本一

仙台市

ホッキョクグマのナナ

ニシゴリラのドン



(仙台市八木山動物公園提供)

仙台市八木山動物公園には、現在国内で最高齢の動物が2種2頭いる 2017年(平成29年)12月31日現在

■ホッキョクグマのナナ

1984年(昭和59年)カナダ生まれ 34歳、雌/人間なら90~100歳)

<性格> 好奇心が旺盛で新しい遊びが大好きな“おばあちゃん”で、ホッキョクグマのカイとポーラは、ナナとは別の放飼場で元気に動き回る。

<人気度> 遠方(全国各地)からナナを見に来るファンの方もいる。

令和3年1月24日に亡くなりました

■ニシゴリラのドン

1971年(昭和46年)オランダから来園 推定49歳、雄/人間なら90歳)

<性格> 気難しく、繊細で少し臆病。“のんびり屋のおじいちゃん”

<人気度> 威厳のある姿が人気、ゴリラ展示場前にはいつも見物客が大勢いる。

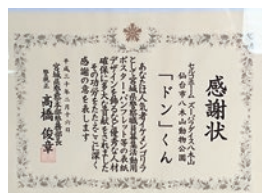
令和元年5月19日に亡くなりました

ドンと来い!

■ドンに宮城県警から感謝状

ドンが一役かっているのは、宮城県警の警察官の募集のポスターだ。“ドン”と来いと呼びかけている。視線は鋭く貫禄十分。

毎年約50万人来園



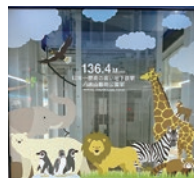
県警の感謝状(平成30年2月)

■動物公園のいろいろな取り組み

2015年に「開園50周年」を迎えた仙台を代表するレジャー・教育施設で、地下鉄東西線開通によって交通アクセスが向上した。

◆年間イベント

- 動物とのふれあい
- ナイトズーリアム
- 写真・写生企画
- 夏休み生き物教室
- 飼育員のお話
- えさやり体験 など



飼育員が語るエピソード

ナナ

令和3年1月24日に亡くなりました

31歳から始めた健康管理のためのハズバンドリートレーニングでしたが、若いカイとポーラよりも上達が早く、結局は一番早くできるようになりました。落ち着いていてトレーニングによくついてきてくす。

プールの穴にぴったりはまる物を詰めるのが好きで、よく湯たんぽを詰めます。飼育員は一日の終わりに詰めたものを取り出すのですが、ある日取り出してみたら小さな穴に4つも湯たんぽが詰められていました。

プールに水を足していると、ナナは勢いよく水が出てくるところで口を開けたり、水を前足で抑えたりするのが好きなので、ナナが遊んでいるのが見たくてついチェックしにいきます。

雪の日が大好きで、積もった雪に体をこすりつけているときは本当にうれしそう。大きな岩の上におもちゃを乗せるのがナナのマイブームになったことがあり、ナナは連日おもちゃを乗せたりおろしたりして楽しんでいましたが、ある日お気に入りのおもちゃをかなり上のほうに乗せてしまい、手が届かなくなっておろせなくなってしまいました。

おもちゃをあきらめきれないようで、ずっと見ているのがかわいらしかったです。

飼育員が語るエピソード

ドン

令和元年5月19日に亡くなりました

20代後半から30代の頃のドンは、飼育員や来園者によく草などを投げつけていました。鋭い眼光と大きな体からは想像もできませんが、気難しく繊細で臆病な性格のドンは、じっと見られることが好きではなく、緊張がピークに達すると胸を叩いてドラミングをして草を投げつけていました。特に写真を取られるのが大嫌いで、写真を撮っていた時もよく草を投げつけてきたものです。撮り始めた時はカメラを時折チラチラと横目で見て、おとなしく我慢していますが、しばらくするとおもむろに立ち上がりゆっくりと放飼場の端まで近づいてきて、投げるのに手ごろな草を引き抜き丁寧に根っこについた土を払い落とします。そして鋭い目でターゲットを確認し、勢いよく走り胸を叩いてドラミングをしながら草を投げつけてきました。そのコントロールは絶妙で細かい土はあまり飛んでこないのですが、草本体は確実にカメラの方に飛んでくるので、ドンが草を引き抜いて準備をするたびにカメラを必死に守っていました。一眼レフと大きな望遠レンズを向けられてよほど怖かったのかもしれませんが、50歳を迎えてドラミングもすることはなくなり穏やかになりましたが、時折見せる眼の奥に光る眼光と鋭い眼差しは昔と変わらず、たまにその眼差しで睨まれると「ゾクッ」としてしまふのは私だけでしょうか。

富沢遺跡から発掘した2万年前の姿が、 地底の森ミュージアムで保存！

みやぎの自然

世界唯一

仙台市

富沢遺跡(地底の森ミュージアム)

2万年前の旧石器時代の湿地林跡



野営跡
画：細野修一

氷河期の富沢の風景



(「野営跡復元画」 仙台市教育委員会提供)

地表下5mの地層から2万年前の遺跡 世界中でここだけ！

仙台市地下鉄長町南駅より西に徒歩5分の所に「**地底の森ミュージアム**」がある。この一帯は富沢遺跡の中央にあたり、1988年（昭和63年）に地表下5mの地層から**約2万年前の氷河期の湿地林と当時の人々のキャンプ跡**が見つかった。これが**世界にも例のない大発見**となり、遺跡の保存と活用を図ることを目的に建設された施設で、全国的に著名となったばかりではなく、世界各地の研究者からも注目を集めた。これまで30年以上150回にわたる発掘調査で、湿地林跡は遺跡北西部を中心に見つかっており、その面積は約10haにも及ぶ。開館は1996年（平成8年）11月、ぜひ一度は足を運んで自分の目で確かめてもらいたい施設でもある。

2万年前の旧石器時代とは

この頃の地球は最終氷期最寒冷期で、仙台周辺の年平均気温は**現在よりも7～8度低く**、雨が少ない大陸性に近い気候だったようである。

実際に興味深く見てみよう！

どんなものが発見されたの

遺跡周辺は湿地草原や亜寒帯の針葉樹が広がり、動物ではシカのフンが20数ヶ所、昆虫は約70点が見つかっており、多くはコガネムシ・ゴミムシ等である。

また、キャンプ跡からは百点以上の石器が見つかった。ここから3.5km西にある**山田上ノ台遺跡**には、縄文時代の竪穴式住居跡がある。

参考：「富沢遺跡と太白区」 他

仙台市宮城野区の「日和山」は 日本一低い山として知られる

みやぎの自然

日本一

仙台市

ひよりやま
日和山

日和山の経緯

- 1909年 地元住民が築山(海・漁業の様子を見るため)
- 1913・19年 2回地元住民が土盛りを実施
- 1972年 旧環境庁「鳥類観測station」に選定
- 1991年 日本一低い山に認定(日本最低峰)
- 1996年 大阪市の天保山に一位の座を譲る
- 2014年 18年ぶりに再び日本一の座に返り咲く。

2014年(平成26年)「日和山」は震災の津波で地形が一変 再び日本一の座に

仙台市宮城野区蒲生にある日和山は、古くは七ヶ浜村の湊浜小学校低学年の遠足、7月1日には山開きが行われ、蒲生干潟の観測地としても知られていた。**1991年(平成3年)**に国土地理院の地形図に掲載され、**日本一低い山(標高6.05m)**になったが、その後、このタイトルを大阪市の「**天保山(標高4.5m)**」に譲っていた。東日本大震災の津波で削られてしまうが、2014年(平成26年)の測量で、**標高3m**と記録されたことから、**18年ぶりに再び日本一の座**に返り咲いた。震災後は、災害危険区域に指定され、住宅再建は叶わず、中野小学校も閉校となるが、日本一をきっかけに、元住民たちによる新たな地域づくりの取組みが始まることが期待される。

山開き、元日は初日の出

地域の方々が県外からの中・高校生の訪問を受入れて震災を伝え、「日和山ジオラマ」「日和山パンフレット」を完成させた。7月1日の富士山の山開きにあわせて開催されていた「日和山山開き」は、2015年(平成27年)に復活し、2018年(平成30年)には200人を越える登山者が訪れた。元日には、初日の出を見る人がたくさん訪れており、その光景は、それは震災前から変わっていないという。

地元住民の“ふるさとのシンボル”

中野小学校の跡地には、震災前の日和山(標高6.05m)を再現したモニュメントが設置されている。これは震災前から日和山を愛してきた住民の皆さんの心でもある。

震災を風化させない取組を 宮城から未来に発信！

みやぎの自然

日本初

気仙沼市・女川町・南三陸町 他

『語り部バス』運用によるガイド風景



『女川いのちの石碑』プロジェクト



女川いのちの石碑
震災当時の小学生が立ち上げた「いのちの石碑プロジェクト」
●2021年（令和3年）11月に21基の建立が完了

震災・津波被害を風化させない取組 宮城から全国へ広げる

東日本大震災を経験した私達は、「災害」そのものを語り伝え、また、未来の人々にも「防災や減災」の教訓を残していく使命を持っているのではないだろうか。

気仙沼市唐桑半島には、**日本で最初に作られた津波疑似体験館**があり、防災教育・研修に取り組んでいる。また、震災を風化させないための「語り部」「震災モニュメント」など、全国展開に向けての取り組みもスタートしている。

日本で最初の津波体験館を併設

唐桑半島ビジターセンター

1984年（昭和59年）7月にオープンした、三陸海岸に関係の深い「津波」をテーマに実際の体験に即してストーリー化し、映像・音響・振動・送風等の機械を組合せた地震津波の疑似体験ができる施設である。東日本大震災時の様子も組み込まれており、津波の大迫力には圧倒される（津波体験館は2022年（令和4年）6月に閉館）。



津波の歴史写真展

東日本大震災をはじめ、過去の津波があった明治三陸大津波、昭和三陸大津波、チリ地震津波の写真記録を見ることができ、実際の津波から多くのことを学べる。当センター事務局長は、「機会があれば、一度この館を訪れて、津波の体験や写真展を見て、現実の姿を見てほしい」と語る。



その1. 『語り部シンポジウム』の全国展開を宮城から発信した事例 (南三陸町)

2016年（平成28年）、震災の風化防止、復興まちづくりの地域活性化、先例に学び情報共有を目的に、**第1回全国被災地語り部シンポジウム in 東北**が**国内初の取組**として南三陸町で開催された。翌2017年（平成29年）の第2回は淡路市で開催された後、2018年（平成30年）の第3回は再び南三陸町で『**KATARIBE**』を世界へ～語り部と震災遺構が紡ぐ“被災地”と“未災地”～と題し、約430名が参加した。シンポジウムを提唱した「南三陸ホテル観洋」の女将 阿部憲子氏は「千年に一度の災害は、千年に一度の学びの場」と語っている。

その他、「南三陸ホテル観洋」では、「語り部バス」を運用し、これまで30万人以上の方が利用している。



その2. 『いのちの大切さを伝える碑文』を刻み行動を促す子供達 (女川町)

『**女川いのちの石碑**』とは、東日本大震災当時、小学6年生だった女川町の子供たちが、中学生になり防災・減災の授業を通して、「1000年先の命を守りたい」との想いから、「記録を残す」というテーマで女川にある21の浜にちなんで、21基の石碑を建てようというプロジェクト。

◆碑文の一部（要約）

- 津波到達地点なのでこの碑を絶対に移動するな
- 大地震がきたらこの石碑より上へ逃げて
- 逃げない人がいたら無理やり連れだして
- 戻ろうとしている人がいたら絶対に引き止めて



その3. 県内各タクシー事業者が『語り部タクシー』で被災地を案内

2012年（平成24年）10月からNPO法人宮城県復興支援センターの講習を受けた認定ドライバーが、「語り部タクシー」として、東日本大震災の爪痕が残る場所に案内し、当時の状況や復興の現状を説明するという取組を行っている。